

歴史的な町並みとひなまつりに代表される真壁地区のまちづくりが、サントリー文化財団主催の第33回サントリー地域文化賞に輝きました。

9月27日、東京都内で開催された第33回サントリー地域文化賞の贈呈式には、「真壁伝統ともてなしのまちづくり」の皆さん(35人)のほか中田市長も出席し受賞の喜びを分かち合いました。

サントリー文化財団は、1979年2月に、同社の創業80周年を記念して設立されました。

サントリー地域文化賞はこの事業の一環として、全国各地で新聞社並びにNHKから推薦された地域文化の発展に貢献した個人または団体を顕彰しています。

今回の受賞は、桜川市真壁町で行われている歴史的建造物の保存や伝統と技と芸を復活させる活動、「真壁のひなまつり」に見られる「もてなしの文化」など質の高い多彩な文化活動が高く評価されたものです。

茨城県内では、これまでに4つの団体が受賞しており、桜川市は5例目となります。

真壁 伝統ともてなしの まちづくり



第33回サントリー地域文化賞を受賞した「真壁 伝統ともてなしのまちづくり」の皆さんと中田市長(写真前列中央はサントリー文化財団の鳥居信吾理事長)

『サントリー地域文化賞』を受賞

受賞者代表の川嶋利弘かわしまとしひろさんは「地域住民と行政が一体となっておもてなしの心を念頭に取り組んできたことが評価してもらえた。地域のみなさんと受賞を喜びたい。」と話していました。

真壁のこれまでのまちづくりへの取り組み

真壁のまちづくりの活動が開始したのは今から18年前。町の素晴らしさを再認識しようとしたグループの結成が起爆剤となり、その後様々な活動やイベントを展開。特に「真壁のひなまつり」では期間中10万人の来訪者に「オール真壁」を掲げて地域住民、商工会、行政が一致協力し、真壁の伝統と文化を取り入れておもてなしを行ってきました。

◎まちづくりの経緯

■1993年／市民団体「ディスプレイまかべ」が結成され、町並み保存運動を開始。
■1999年～2005年／行政による歴史的建造物の調査で104棟が国の有形文化財に登録。

■2001年／地域住民、商工会、行政が協力し、まちづくり真壁、町並み案内ボランティア、商店街花いっぱい運動などの活動が活発化。

人形浄瑠璃が真壁白井座としての復活。真壁藍染保存会が結成。真壁左官教室からはプロの伝統技能者が巣立つ。

■2003年／住民有志による真壁のひなまつり第一章が当初21軒でスタート。

■2010年／江戸時代の町割りを残す17・6haが県内の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。

3・11の東日本大震災では真壁も甚大な被害を受け、建造物や住民の心にも大きな傷跡を残しましたが、今回の受賞がエネルギーとなり町の人々に復興の勇気を与え真壁の再生が始まりました。

真壁のこれまでの受賞・表彰歴

- ・地域づくり総務大臣表彰 (2004年)
- ・優秀観光地づくり賞 金賞 総務大臣賞 (2008年)
- ・JTB交流文化賞 優秀賞 (2009年)
- ・地域づくり総務大臣表彰 (2010年)
- ・茨城県観光物産協会功労表彰 (2011年)